



## コール表示の制限

- [コール表示制限の概要 \(1 ページ\)](#)
- [コール表示制限の設定タスク フロー \(1 ページ\)](#)
- [コール表示制限の連携動作 \(12 ページ\)](#)
- [コール表示制限機能の制限事項 \(14 ページ\)](#)

### コール表示制限の概要

Cisco Unified Communications Manager には、発信側ユーザと接続側ユーザの両方の番号と名前の情報の表示を許可または制限する柔軟な設定オプションがあります。接続側の番号と名前は、それぞれ個別に制限できます。

接続側の番号と名前の制限は、SIP トランク レベルまたはコール単位で設定できます。SIP トランク レベルでの設定は、コール単位の設定をオーバーライドします。

たとえばホテル環境では、客室とフロント デスクの間で行われたコールの情報を表示する必要があります。一方、客室間のコールについては、いずれの電話に表示されるコール情報も制限できます。

### コール表示制限の設定タスク フロー

始める前に

- [コール表示制限の連携動作 \(12 ページ\)](#) を確認してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	<a href="#">電話機能一覧の生成</a>	コール表示制限機能をサポートするエンドポイントを特定するためにレポートを生成します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 2</b>	コール表示制限のパーティションの設定 (2 ページ)	パーティションを設定して、電話番号 (DN) の論理グループと、到達可能性の特徴が類似したルートパターンを作成します。たとえば、ホテル環境では、ルーム同士でダイヤルするためのパーティションや、公衆電話交換網 (PSTN) にダイヤルするためのパーティションを設定できます。
<b>Step 3</b>	コール表示制限のコーリング検索スペースの設定 (4 ページ)。	コーリング検索スペースを設定し、発信側デバイスがコールを終了しようとする際に検索できるパーティションを指定します。ルームやフロントデスク、ホテルのその他の内線番号、PSTN、およびルームのパーク範囲 (コールパークの場合) に対してコーリング検索スペースを作成します。
<b>Step 4</b>	接続先番号表示制限のサービスパラメータの設定 (5 ページ)。	接続側の回線 ID をダイヤル番号としてのみ表示するサービスパラメータを設定します。
<b>Step 5</b>	変換パターンの設定 (6 ページ)。	異なるレベルの表示制限のトランスレーションパターンを設定します。
<b>Step 6</b>	電話機のコール表示制限の設定 (8 ページ)	エンドポイントと、コール表示制限に使用するパーティションおよびコーリング検索スペースを関連付けます。
<b>Step 7</b>	コール表示制限のPSTNゲートウェイの設定 (9 ページ)	PSTNゲートウェイと、コール表示制限に使用するパーティションおよびコーリング検索スペースを関連付けます。
<b>Step 8</b>	これはオプションです。SIPトランクでのコール表示制限の設定 (10 ページ)	この手順を使用して、SIPトランクレベルで接続側の番号と名前の制限を設定できます。SIPトランクレベルの設定は、コール単位の設定を上書きします。

## コール表示制限のパーティションの設定

パーティションを設定して、ディレクトリ番号 (DN) の論理グループと、到達可能性の特徴が類似したルートパターンを作成します。パーティションを作成することで、ルートプランが組織、場所、コールタイプに基づいた論理サブセットに分割されることになり、コールルーティングが容易になります。複数のパーティションを設定できます。

## 手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- Step 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。
- Step 3** [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。
- パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (\_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 4** パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。
- 説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (" )、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([ ]) は使用できません。
- 説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。
- Step 5** 複数のパーティションを作成するには、各パーティションエントリごとに 1 行を使います。
- Step 6** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
- スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。
- Step 7** 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。
- [発信側デバイス (Originating Device)]: このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
  - [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)]: このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウン リストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。
- Step 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## パーティション名のガイドライン

コーリングサーチスペースのパーティションのリストは最大 1024 文字に制限されています。つまり、CSS 内のパーティションの最大数は、パーティション名の長さによって異なります。次の表を使用して、パーティション名が固定長である場合のコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数を決定します。

表 1:パーティション名のガイドライン

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	340
3 文字	256
4 文字	204
5 文字	172
...	...
10 文字	92
15 文字	64

## コール表示制限のコーリング サーチ スペースの設定

コーリングサーチスペースを設定し、発信側デバイスがコールを終了しようとする際に検索できるパーティションを指定します。ルームやフロントデスク、ホテルのその他の内線番号、PSTN、およびルームのパーク範囲（コールパークの場合）に対してコーリング サーチ スペースを作成します。

始める前に

[コール表示制限のパーティションの設定（2 ページ）](#)

手順

**Step 1** [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）] から、以下を選択します。[コールルーティング（Call Routing）] > [コントロールのクラス（Class of Control）] > [コーリングサーチスペース（Calling Search Space）] を選択します。

**Step 2** [新規追加（Add New）] をクリックします。

**Step 3** [名前（Name）] フィールドに、名前を入力します。

各コーリング サーチ スペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド（.）、ハイフン（-）、およびアンダースコア（\_）を任意に組み合わせて含めることが可能です。

**Step 4** [説明（Description）] フィールドに、説明を入力します。

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符（"）、パーセント記号（%）、アンパサンド（&）、バックスラッシュ（\）、山カッコ（<>）は使用できません。

**Step 5** [使用可能なパーティション（Available Partitions）] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。

- パーティションが1つの場合は、そのパーティションを選択します。
- パーティションが複数ある場合は、Ctrl キーを押した状態で適切なパーティションを選択します。

- Step 6** ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。
- Step 7** (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。
- Step 8** [保存 (Save)] をクリックします。

## 接続先番号表示制限のサービスパラメータの設定

接続先番号表示制限は、接続先の回線IDの表示をダイヤルした番号のみに制限します。このオプションにより、顧客のプライバシーに関する問題と、電話機のユーザに不要な接続先番号が表示されるという問題が解消されます。

始める前に

[コール表示制限のコーリング検索スペースの設定 \(4 ページ\)](#)

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]。
- Step 2** Cisco CallManager サービスが実行されているサーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。
- Step 3** [元の着信番号を常に表示 (Always Display Original Dialed Number)] サービスのパラメータを [True] に設定してこの機能を有効にします。  
デフォルト値は [いいえ (False)] です。
- Step 4** (任意) [トランスレーション時の元の着信番号の名前の表示 (Name Display for Original Dialed Number When Translated)] サービスのパラメータを設定します。  
デフォルトのフィールドには、トランスレーション前の元の着信番号の呼び出し表示が示されています。このパラメータを変更して、トランスレーション後の着信番号の呼び出し表示を示すことができます。このパラメータは、[元の番号を常に表示 (Always Display Original Number)] サービスのパラメータが [False] に設定されている場合は、適用されません。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

## 変換パターンの設定

Unified Communications Manager トランスレーションパターンを使用して、発信をルーティングする前に着信番号を操作します。場合によっては、システムが着信番号を使用しないことがあります。また、公衆電話交換網（PSTN）が着信番号を認識しない場合もあります。コール表示制限機能では、さまざまなトランスレーションパターンを通じてコールがルーティングされた後に、コールが実際のデバイスに接続されます。

始める前に

[接続先番号表示制限のサービスパラメータの設定（5 ページ）](#)

手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）] から、以下を選択します。[コールルーティング（Call Routing）] > [トランスレーションパターン（Translation Pattern）]。
- Step 2** [トランスレーションパターンの設定（Translation Pattern Configuration）] ウィンドウ内の各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[コール表示制限のトランスレーションパターンのフィールド（6 ページ）](#) を参照してください。
- Step 3** [保存（Save）] をクリックします。
- 

### コール表示制限のトランスレーションパターンのフィールド

フィールド	説明
[トランスレーションパターン（Translation Pattern）]	数字とワイルドカードを含む、トランスレーションパターンを入力します。スペースは使用しないでください。たとえば、NANP の場合、一般的なローカルアクセスには 9.@、一般的なプライベートネットワークの番号計画には 8XXX を入力します。  有効な文字には、大文字の A、B、C、D と、国際的なエスケープ文字 + を表す \+ などがあります。
説明	トランスレーションパターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符（"）、パーセント記号（%）、アンパサンド（&）、山カッコ（<>）は使用できません。
パーティション（Partition）	ドロップダウンリストから、このトランスレーションパターンに関連付けるパーティションを選択します。

フィールド	説明
コーリング サーチ スペース	ドロップダウンリストから、このトランスレーションパターンに関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。
発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)]: 発信側回線 ID の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [許可 (Allowed)]: 発信側電話番号を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [制限あり (Restricted)]: Cisco Unified Communications Manager で発信側電話番号の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>
発信者名の表示 (Calling Name Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)]: 発信者名の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [許可 (Allowed)]: 発信側の名前を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [制限あり (Restricted)]: Cisco Unified Communications Manager で発信者名の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>
接続側回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)]: 接続側回線 ID の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [許可 (Allowed)]: 接続側電話番号を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [制限あり (Restricted)]: Cisco Unified Communications Manager で接続側電話番号の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>

フィールド	説明
接続先名の表示（ <b>Connected Name Presentation</b> ）	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト（Default）]: 接続先名の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [許可（Allowed）]: 接続側の名前を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [制限あり（Restricted）]: Cisco Unified Communications Manager で接続側名の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>

## 電話機のコール表示制限の設定

この手順を使用して、コール表示制限に使用するコーリングサーチスペースやパーティションを電話機に関連付けます。

始める前に

[変換パターンの設定（6 ページ）](#)

手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）] から、以下を選択します。[デバイス（Device）]>[電話（Phone）]。
- Step 2** 次のいずれかの作業を実行します。
- 既存の電話機についてのフィールドを変更するには、検索条件を入力し、検索結果の一覧から電話機を選択します。[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが表示されます。
  - 新しい電話機を追加するには、[新規追加（Add New）] をクリックします。  
[新規電話を追加（Add a New Phone）] ウィンドウが表示されます。
- Step 3** [コーリングサーチスペース（Calling Search Space）] ドロップダウンリストから、着信番号のルーティング方法を決定する際に、システムが使用するコーリングサーチスペースを選択します。
- Step 4** [表示インジケータを無視（内線コールのみ）（Ignore presentation indicators（internal calls only））] チェックボックスをオンにして、内線コールの表示制限を無視します。
- Step 5** [保存（Save）] をクリックします。  
電話機がデータベースに追加されます。
- Step 6** 追加した電話機を電話番号に関連付けるには、[デバイス（Device）]>[電話（Phone）] を選択し、追加した電話機を検索するための検索パラメータを入力します。



- Step 7** [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで、電話機の名前をクリックします。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Step 8** [関連付け (Association)] ペインから、電話機の名前をクリックして電話番号を追加または変更します。  
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Step 9** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [電話番号 (Directory Number)] テキストボックスで、電話番号の値を追加または変更し、[ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストの値を選択します。
- Step 10** [保存 (Save)] をクリックします。

### 電話設定の例

電話機 A (Room-1) をパーティション P\_Room とデバイス/回線コーリング検索スペース CSS\_FromRoom で設定

{ P\_Phones, CSS\_FromRoom } : 221/Room-1

電話機 B (Room-2) をパーティション P\_Room とデバイス/回線コーリング検索スペース CSS\_FromRoom で設定

{ P\_Phones, CSS\_FromRoom } : 222/Room-2

電話機 C (Front Desk-1) をパーティション P\_FrontDesk とデバイス/回線コーリング検索スペース

CSS\_FromFrontDesk を使用し、[表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators)] チェックボックスをオンにして設定

{ P\_FrontDesk, CSS\_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 100/Reception

電話機 D (Front Desk-2) をパーティション P\_FrontDesk とデバイス/回線コーリング検索スペース

CSS\_FromFrontDesk を使用し、[表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators)] チェックボックスをオンにして設定

{ P\_FrontDesk, CSS\_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 200/Reception

電話機 E (Club) をパーティション P\_Club とデバイス/回線コーリング検索スペース CSS\_FromClub で設定

{ P\_Club, CSS\_FromClub } : 300/Club

## コール表示制限の PSTN ゲートウェイの設定

PSTN ゲートウェイと、コール表示制限に使用するパーティションおよびコーリング検索スペースを関連付けます。

始める前に

[電話機のコール表示制限の設定（8 ページ）](#)

手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] から、[デバイス（Device）]>[ゲートウェイ（Gateway）] を選択します。
- Step 2** 検索条件を入力し、結果のリストから PSTN ゲートウェイを選択します。  
[ゲートウェイの設定（Gateway Configuration）] ウィンドウが表示されます。
- Step 3** [コーリング サーチ スペース（Calling Search Space）] ドロップダウンリストから、PSTN からの着信コールのルーティング方法を決定する際に、システムが使用するコーリングサーチスペースを選択します。
- Step 4** [保存（Save）] と [リセット（Reset）] をクリックして設定の変更を適用します。
- Step 5** （オプション）使用可能なトランクまたはゲートウェイを関連づけるには、[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] で、[SIP ルートパターン（SIP Route Pattern）] を選択し、[SIP トランク/ルートリスト（SIP Trunk/Route List）] ドロップダウンリストから SIP トランクまたはルートを選択します。
- 

ゲートウェイ設定の例

ルートパターン P\_PSTN とコーリング サーチ スペース CSS\_FromPSTN を使用して PSTN ゲートウェイ E を設定します。

```
{CSS_FromPSTN}, RoutePattern {P_PSTN}
```

## SIP トランクでのコール表示制限の設定

SIP トランク レベルで接続側の番号と名前の制限を設定できます。SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定を上書きします。

始める前に

（オプション） [コール表示制限の PSTN ゲートウェイの設定（9 ページ）](#)

手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）] から、以下を選択します。[デバイス（Device）] &gt; [トランク（Trunk）]  
[トランクの検索と一覧表示（Find and List Trunks）] ウィンドウが表示されます。
- Step 2** 検索条件を入力して [検索（Find）] をクリックします。
- Step 3** 更新するトランクの名前を選択します。

**Step 4** [SIP トランク設定 (SIP Trunk Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「[コール表示制限の SIP トランクのフィールド \(11 ページ\)](#)」を参照してください。

**Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

## コール表示制限の SIP トランクのフィールド

表 2: 着信コール

フィールド	説明
発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[デフォルト (Default)]</b>: 発信側回線 ID の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>[許可 (Allowed)]</b>: 発信側電話番号を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>[制限あり (Restricted)]</b>: Cisco Unified Communications Manager で発信側電話番号の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>
発信者名の表示 (Calling Name Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[デフォルト (Default)]</b>: 発信者名の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>[許可 (Allowed)]</b>: 発信側の名前を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>[制限あり (Restricted)]</b>: Cisco Unified Communications Manager で発信者名の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>
コーリング サーチ スペース	<p>ドロップダウンリストから、このトランスレーションパターンに関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。</p>

表 3: 発信コール

フィールド	説明
接続側回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)]: 接続側回線 ID の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [許可 (Allowed)]: 接続側電話番号を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [制限あり (Restricted)]: Cisco Unified Communications Manager で接続側電話番号の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>
接続先名の表示 (Connected Name Presentation)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)]: 接続先名の表現を変更しない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [許可 (Allowed)]: 接続側の名前を表示する場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [制限あり (Restricted)]: Cisco Unified Communications Manager で接続側名の表示をブロックする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>

## コール表示制限の連携動作

ここでは、コール表示制限機能と Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理機能との連携動作について説明します。

機能	連携動作
<p>コールパーク</p>	<p>コールパークとコール表示制限機能を使用する場合には、コール表示制限機能を保持するため、個々のコールパーク番号に対して関連トランスレーションパターンを設定する必要があります。1つのトランスレーションパターンでコールパーク番号の範囲をカバーするように設定することはできません。</p> <p>次のようなシナリオを例として考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム管理者は、77xのコールパーク範囲を作成し、P_ParkRangeという名前のパーティションに配置します。(P_ParkRangeパーティションを客室の電話のコーリングサーチスペース [CSS_FromRoom] に含めることで、P_ParkRangeパーティションが客室の電話に認識されます)。</li> <li>2. 管理者はコールパーク電話番号ごとに個別のトランスレーションパターンを設定し、表示フィールドを [制限あり (Restricted)] に設定します。(このシナリオでは、管理者は770、771、772...779のトランスレーションパターンを作成します)。</li> </ol> <p>(注) コール表示制限機能が正しく機能するためには、管理者が番号範囲(77xまたは77[0-9]など)に対して1つのトランスレーションパターンを設定するのではなく、番号ごとに個別のトランスレーションパターンを設定する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. Room-1がRoom-2にコールを発信します。</li> <li>4. Room-2がコールに応答すると、Room-1がコールをパークします。</li> <li>5. Room-1がコールを取得すると、Room-2にはRoom-1のコール情報は表示されません。</li> </ol> <p>「<a href="#">コールパークとダイレクトコールパーク</a>」を参照してください。</p>
<p>会議リスト</p>	<p>コール表示制限を使用すると、会議参加者のリストの表示情報が制限されます。</p> <p>「<a href="#">アドホック会議</a>」を参照してください。</p>
<p>会議とボイスメール</p>	<p>コール表示制限機能を、会議やボイスメールなどの機能と共に使用すると、電話のコール情報表示にそのステータスが反映されます。たとえば、会議機能が呼び出されると、コール情報表示に [会議 (To Conference)] が表示されます。[メッセージ (Messages)] ボタンを選択してボイスメールにアクセスすると、コール情報表示に [ボイスメール (To Voicemail)] が表示されます。</p>

機能	連携動作
Extension Mobility	<p>コール表示制限機能を Extension Mobility と共に使用するには、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] の [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、[プレゼンテーション インジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] パラメータを有効にします。</p> <p>Extension Mobility でコール表示制限機能を有効にする場合、コール情報の表示または制限は、デバイスにログインしているユーザーに関連付けられている回線プロファイルに応じて異なります。(ユーザーに関連付けられている) ユーザ デバイス プロファイルに入力された設定は、(Extension Mobility が有効な電話の) 電話設定に入力された設定を上書きします。</p>
コール自動転送	<p>接続番号表示制限は、このシステムから発信されるすべてのコールに適用されます。この値を [はい (True)] に設定すると、このフィールドは既存の Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション、機能、およびコール処理と連携します。この値は、システムの内部または外部で終了するすべてのコールに適用されます。接続番号表示が更新され、不在転送または話中転送の転送先にコールがルーティングされるか、コール転送または CTI アプリケーションでリダイレクトされる場合、変更された番号またはリダイレクトされた番号が表示されるようになりました。</p>

## コール表示制限機能の制限事項

トランスレーションパターン: トランスレーションパターンではエントリの重複は許可されていません。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。